

ユニバーサルデザインの考え方に基づくバリアフリーのあり方を考える懇談会 報告の概要

1. 懇談会での検討経緯

- 懇談会メンバーとして、学識経験者、障害者代表、公共交通事業者、建築関連事業者、自治体代表等、**関係者が一堂に会して検討を実施**
- 関係する**11の障害者団体等へのヒアリングを実施**し、意見を聴取
 - <ヒアリング実施団体>
主婦連合会・消費科学連合会・全国精神障害者家族連合会・全国脊髄損傷者連合会
全国老人クラブ連合・全日本手をつなぐ育成会・全日本聾唖連盟・DPI日本会議
東京都聴覚障害者連盟・日本身体障害者団体連合会・日本盲人会連合 (五十音順)
- 懇談会の開催と並行して**全都道府県・市町村を対象にアンケート調査を実施**し、意見・要望を把握

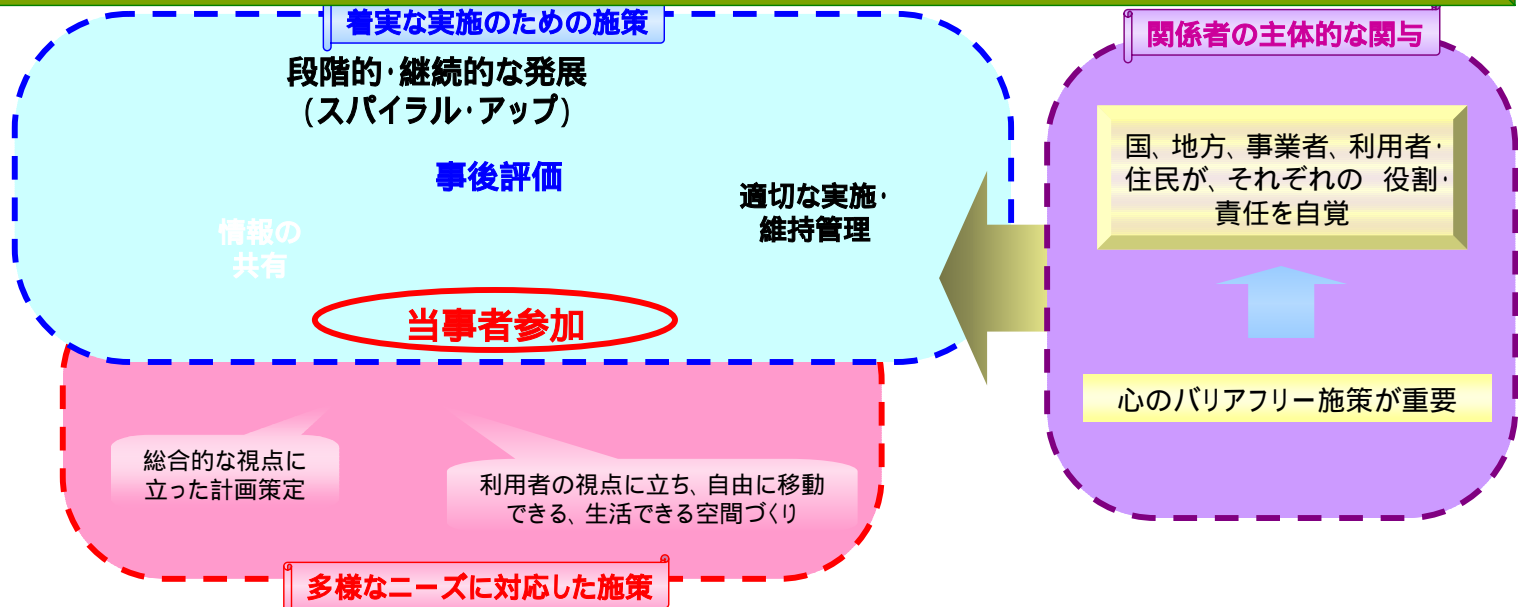
多様な関係者の参画により、幅広い観点から、総合的に、今後のバリアフリー施策のあり方について検討を実施

ユニバーサルデザイン政策大綱に反映

2. ユニバーサルデザインの考え方に基づく施策の考え方

利用者・住民の参加や、段階的・継続的發展(スパイラルアップ)のプロセスを確立し、「人」を中心的な視点に据え、様々な観点から、継続的に「よりユニバーサルである」状況を達成すべく努力することが、ユニバーサルデザインの基本

- 利用者参加の促進や、計画策定などを通じた総合的な対策を講ずることにより、多様なニーズに対応した施策を展開
- 事後評価の促進やスパイラルアップの仕組みの構築等により、着実に施設整備等を実施
- 責任やコストに対する考え方を整理し、当事者としての自覚と責任を持つ利用者等の人材の育成を図り、心のバリアフリーの取組みを推進する等により、関係者が主体的に関与できる社会を構築



3. 具体的な施策の例

多様な対象者を想定し、
多様な対象施設をバリアフリー化

- 高齢者・身体障害者等のみならず知的・精神障害者等も含めた施策の展開
- 駐車場に、車いす利用者も利用できるスペースの確保・適切に運用される方策の検討
- タクシー・バス・航空機等の更なるバリアフリー化
- 学校・共同住宅・小規模商店等のバリアフリー化の検討 等

より広範囲のバリアフリー化の促進

- ニーズが高い大規模施設周辺エリアなどについて基本構想策定促進
- 計画策定エリアを拡大し、旅客施設と利用する施設とを一体的に整備 等

利用者・住民参加の促進

- 基本構想策定・事業計画策定・実施等の各段階での利用者参加の徹底
- 利用者・住民から計画策定主体である市町村等に対する提案制度の検討
- 事後評価にも利用者参加の促進
- 段階的・継続的な発展(スパイラルアップ)を図る体制の検討 等

心のバリアフリーの促進

- 学校教育・社会教育・従業員教育など様々な機会に普及啓発を促進
- 対等なパートナーとなる住民・専門家・障害当事者の育成
- ボランティア等の配置による人的対応の促進
- 情報提供をこれまで以上に推進・提供する情報内容等の検討 等

その他

- 支援策や相談窓口を分かりやすくする検討
- 個別の輸送サービス(STS)の検討・移動支援事業との連携の検討